

「虹色新聞」を創刊

草津市の小学生たちが「こども記者」となって取材に取り組み、記事を書いた「子ども虹色(なないろ)新聞」(B4判)の第1号が発行された。子どもたちの夢を育もうと活動する認定NPO法人「くさつ未来プロジェクト(KMP)」(堀江尚子代表)の企画で、市内の読売新聞販売店(YC)でつくる「草津五店会」が編集、印刷に協力。月1回、主に市内で配達する朝刊に折り込んで、読者に届けられる。

小学生が取材し記事に

子どもたちの将来の職業などの希望を聞き、実際に、自分の夢を仕事につなげた人たちへの取材に挑戦する企画。堀江代表は「あこがれの職業に携わる方々に話を聞かせていたくことで、大人のすごさを知り、刺激になれば」と

期待する。

第1号は27日に発行。草津五店会が作るミニコミ紙「Shiga Yomi」の裏面に印刷されている。現在登録している小学1〜5年のこども記者11人が抱負を発表。記事は、草津川跡地公園



④ヘアサロンで取材する「子ども虹色新聞」のこども記者ら(草津市で)⑤発行された「子ども虹色新聞」第1号の紙面



草津のNPOにYCが協力

の「ai彩ひろば」にプレオープンしたイチゴ農園と、ヘアサロンを訪ねた記者のリポートと取材メモを掲載している。

昨年12月中旬に取材した同市笠山のヘアサロン「Mio」では、こども記者が代表の南澤晃さん(25)に、店の特色や雰囲気作りなど、顧客に愛されるための工夫を聞いた。記者は熱心にメモを取り、スマートフォンのカメラで撮影していた。

完成した紙面を見て、ヘアサロンを取材した小学3年草川優衣さん(9)は「私が書いた記事が新聞に載るなんて、すごくうれしい」と喜び、小学2年村井颯太君(8)は「新聞を読んで、イチゴ農園やヘアサロンに行ってみようと思ってもらえたら」と期待している。

次号の発行に向け、スイーツやパティシエの仕事に興味を持つこども記者が、ケーキ店を取材する予定にしている。

に約250年前に描かれた「...
草津市に伝わる...